

「堀内基金奨励賞」の設立について

提案理由：本年3月19日に堀内剛二会員から、大気科学の研究奨励のためにと、約500万円（有価証券）の寄付のお申し出がありました。その使途について、堀内会員の御意向をお尋ねしたところ、「大気科学一般に自由にお使い下さい。人選は全て貴会に一任。若い研究者の皆様の御健闘を祈る」との趣旨の御返事を頂きました。このお申し出を生かすべく理事会で検討して参りましたが、この度、右記のような骨子で「堀内基金奨励賞」の成案を得ましたので、この秋に臨時総会を開き提

案いたします。

記

- (1) 堀内剛二会員の寄付金を基金として、その果実により、賞を新しく設ける。
- (2) 名称は堀内基金奨励賞とする。
- (3) 気象学の境界・周辺分野及び、未開発の分野に挑戦し、気象学及び気象技術の向上に貢献している研究者を奨励するための賞とする。
- (4) 原則として1年に1件とする。

堀内基金奨励賞受賞者選定規定

1. 堀内基金奨励賞受賞者を選定するため、堀内基金奨励賞候補者推薦委員会（以下委員会と称する）を設ける。
2. 委員会は5名の委員をもって組織し、委員は毎年1月理事長が会員の中よりこれを委嘱する。ただし、日本気象学会の他の賞の推薦委員と重複しても差し支えない。
3. 委員会は原則として、気象学の境界・周辺及び、未開拓の分野における調査・研究・著述等により、気象学及び気象技術の向上に寄与したものの1件を選

び、6月末までに選定理由書をつけて理事長に報告する。

4. 理事長は常任理事会にかけた後、全理事に対し無記名によってその可否を投票させる。全投票数は理事総数の4分の3以上でなければならない。有効投票のうち3分の2以上可とする得点があるものを受賞者と決定する。
5. 堀内基金奨励賞は原則として賞状及び副賞（賞金）とし、秋季大会でこれを贈呈する。

日本気象学会国際学術交流基金への募金のお願いと寄付者御芳名（第14報）

日本気象学会は、かねてから各国の気象関係組織および研究者との学術交流を図るため、国際学術交流基金をもうけて、学会もしくは会員の学術交流の援助を目的とした活動を致しております。実施にあたっては、外国で開催される国際学術研究集会への会員の出席の補助、国際学術交流に貢献する事業の援助などです。

本来この基金は、少なくとも一千万円程度の元金があって、その利息で活動費をまかなうことを目標としていますが、現在のところ、その過渡期として、学会自身の年間予算から毎年約百万円を積み立て、並行した、わずかの一般事業費と篤志による個人寄付金で活動を行って

おります。

基金の基礎を固めるためには、是非、会員の皆様からの御寄付をお願いします。理事会としては、さらには大口の団体寄付を仰ぐべく努力致す所存です。国際学術交流基金の趣旨を御理解いただき、12月号挿入の振替用紙を御利用の上、一口千円として、なるべく多くの御寄付をお願いします。

なお、募金期限は昭和62年12月末日と致しますが、早い時期にお振り込みいただきますようお願いいたします。

昭和62年8月

日本気象学会

昭和62年7月30日現在、つぎの会員からご寄付がありましたので、お礼を兼ねて報告申し上げます。（敬称略）

浅田 暢彦、金子 義和、山中 大学、根山 芳晴
関根 勇八

1987年8月

以上 5名 合計口数 29口 29,000円
累計 117名 1団体 総口数 968口 968,000円
62. 7. 30 現在 国際学術交流基金額 5,000,000円
（うち配当金 158,683円 基金繰入）